

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点
		大問数	3 題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り大問 3 つで構成され、設問数は減少した。出題形式については、昨年に比べて語句記述問題が減少したほか、正誤判定問題が大きく減少し、今年も年代判定問題が扱われた。また、昨年とは異なり地図を用いた出題はなかった。ヨーロッパやアメリカ大陸に関する出題が続いたが、イスラーム世界に関する設問がやや増加した。また、今年の大問Ⅲはすべて戦後史に関する設問で構成されていたのが特徴的だった。語句記述問題で難しい漢字用語が出題されず、正誤判定問題が大きく減少したことを考慮すると、全体的な難易度は昨年よりやや易化したといえる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	前近代西アジア史	設問 1 : (a). 難問だが、語群にあるほかの人名をヒントに消去法で解答できただろう。設問 4 : 2. やや細かい知識。ペルシア語を表記するために楔形文字が用いられたが、アケメネス朝滅亡後はアラム文字が主流となった。イランがイスラーム化したのち、アラビア文字が使われるようになった。設問 6 : 1. ティムール朝はサマルカンドを都として建国されたが、ティムールの死後にヘラートに遷都した。設問 8 : アのエクバタナはやや難問だが、イ・ウは基本的な知識。エのタブリーズはサファヴィー朝初期の都。	標準
II	欧米およびイスラーム世界における交易 (古代～近代)	設問 1 : (c). やや細かい知識だが、消去法でも解答可能。語群にある「絹」「香辛料」は輸出品ではなく輸入品。(g). やや難問だが、ベニン王国は同志社大学の入試世界史ではたびたび出題される。4 のカネム＝ボルヌー王国がサハラ南縁のチャド湖周辺に成立したことも覚えておきたい。設問 5 : (a). タバコではなく綿花が正しい。設問 10 : (a). やや細かい知識が必要なため、判断に迷った受験生が多かっただろう。	標準

設問別講評			
III	冷戦	設問 1: いずれも基本事項である。同志社大学を志望する受験生であれば確実に得点を伸ばしたい。設問 2: 1・3. 1970 年代の内容。4. フィリピンではなくオーストラリア・ニュージーランドが正しい。設問 3: 2. 1973 年, 東西ドイツは同時に国際連合に加盟した。設問 4: それぞれの年代がかなり離れているため, 判断は容易だっただろう。設問 5: (b). 1972 年に訪中したのはニクソン大統領。なお, 米中国交正常化はカーター大統領の時代であるため, 混同しないように注意したい。設問 7: Z. 米ソ主導に反発したフランスと中国は, 部分的核実験禁止条約 (PTBT) に参加しなかった。なお, この条約の前後で, フランスが 1960 年に, 中国が 1964 年に最初の核実験を行った。設問 8: オ. 空欄のあとに「条約」と書かれているため, 解答の表記に注意したい。	標準

合格のための学習法

同志社大学の入試世界史は, 標準レベルの知識で解答できる設問が比較的多く, 極端な難問は少ない。例年, 文化史関連の出題が目立つ傾向にあるため, 過去問や資料集等を用いて万全に対策をしたい。また, 今年のように戦後史の内容だけで構成された大問が出題される場合もあるため, 早めに通史の学習を終え, 戦後史の正誤判定問題が出題されても落ち着いて対応できるように, 基本的な知識の定着を徹底しておきたい。最後に, 同志社大学は入試講評で受験生の漢字やカタカナ表記について注意喚起を例年行っている。判別できない字は誤答とみなされる可能性があるため, 油断しないようにしたい。また, 同志社大学の入試は解答用紙が独特であるため, 特に記号問題は解答欄を間違えないように注意が必要である。